



平成 23 年 4 月 14 日

各 位

東京都品川区南大井 6 丁目 28 番 12 号
会社名 株式会社 大庄
代表者名 代表取締役社長 平 辰
(コード番号 9979 東証第 1 部)
問合せ先 専務取締役 水野 正嗣
(TEL 03-5764-2229)

特別損失の計上および第 2 四半期業績予想との差異ならびに

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 23 年 8 月期第 2 四半期決算において、下記の通り特別損失の計上を行いますので、その概要および、平成 22 年 10 月 13 日に公表した平成 23 年 8 月期第 2 四半期の業績予想と実績に差異が発生し、かつ通期の業績予想を下記の通り修正したことをお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

当社は、平成 23 年 8 月期第 2 四半期において下記の通り特別損失の計上を行います。

(1) 連結

合計で 1, 400 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 490 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。(該当店舗は 4 2 店舗)
- ②資産除去債務 697 百万円
「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」の適用に伴い、過年度相当額の資産除去債務を計上いたします。
- ③固定資産除却損 183 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ④店舗関係整理損 27 百万円
店舗閉鎖等に伴う現状復帰工事費用等を計上いたします。

(2) 個別

合計で 1, 350 百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

- ①減損損失 490 百万円
最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。(該当店舗は 4 2 店舗)
- ②資産除去債務 658 百万円
「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」の適用に伴い、過年度相当額の資産除去債務を計上いたします。
- ③固定資産除却損 173 百万円
店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。
- ④店舗関係整理損 27 百万円
店舗閉鎖等に伴う現状復帰工事費用等を計上いたします。

2. 平成23年8月期第2四半期における業績予想との差異

(1) 連結

第2四半期連結累計期間連結業績予想数値との差異（平成22年9月1日～平成23年2月28日）
（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|------------------------------|--------|------|------|--------|-----------------|
| 前回発表予想（A） | 42,150 | 120 | 40 | △1,070 | △60円85銭 |
| 今回発表実績（B） | 40,556 | △575 | △662 | △1,736 | △97円13銭 |
| 増減額（B－A） | △1,594 | △695 | △702 | △666 | — |
| 増減率（%） | △3.8 | — | — | — | — |
| 前期第2四半期実績 （平成22年8月期第2四半期） | 42,128 | △762 | △340 | △482 | △23円39銭 |

(2) 個別

第2四半期累計期間個別業績予想数値との差異（平成22年9月1日～平成23年2月28日）
（単位：百万円）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 |
|------------------------------|--------|------|------|--------|-----------------|
| 前回発表予想（A） | 34,200 | 120 | 50 | △1,030 | △58円57銭 |
| 今回発表実績（B） | 32,928 | △602 | △645 | △1,622 | △90円75銭 |
| 増減額（B－A） | △1,272 | △722 | △695 | △592 | — |
| 増減率（%） | △3.7 | — | — | — | — |
| 前期第2四半期実績 （平成22年8月期第2四半期） | 34,412 | △732 | △317 | △411 | △19円93銭 |

3. 理由

(1) 第2四半期連結業績予想との差異の発生理由

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジアなど新興国経済の回復を背景に輸出産業を中心に企業収益が改善する一方で、個人消費は低迷状態が続き、相変わらず景気の先行き不透明感が漂う中で推移いたしました。

外食業界におきましては、市場全体としては売上の回復感は見られたものの、居酒屋業態では相変わらず既存店舗の売上高を維持することが困難な状況が続きました。

このような状況の中で、当社グループは様々な施策に取り組みましたが、既存店売上高は第2四半期累計で前年比96.6%となり、当初計画を割り込む結果となりました。この要因が大きく影響し、連結売上高計画は前回予想を下回ることとなりました。

また、売上高減少により売上総利益額が減少したことや、「資産除去債務会計基準」の適用や減損損失などによる特別損失計上の影響し、営業利益、経常利益、四半期純利益についても、前回予想を下回ることとなりました。

(2) 第2四半期個別業績予想との差異の発生理由

第2四半期個別業績につきましても、第2四半期連結業績と同様の要因により前回予想を下回ることとなりました。

4. 通期業績予想（平成22年9月1日～平成23年8月31日）の修正

平成23年8月期の連結及び個別の業績予想につきましては、平成23年3月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖地震、並びにそれに伴って電力会社が行っている計画停電等による影響度が極めて予想しにくく、現在早急に精査している状況であります。従いまして、平成22年10月13日に公表した業績予想を一旦取下げ、業績見通しが確定でき次第公表する予定です。

（注）上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上